

なぜ若手を育てるのはこんなに難しいのか

著：古屋 星斗

単行本：288 ページ

出版社：日本経済新聞出版

価格：1,760 円（税込）

はじめに

若手の離職率が上昇していると感じている方は多いことでしょう。働き方改革によって長時間労働やハラスメントが減り、職場はゆるやかな雰囲気になりました。それでも、若手が「会社に不満はないけれど将来が不安だ」と感じ、結果として退職を選ぶケースが増えています。そこで新時代に合った育成のアプローチの考え方を見てみましょう。

「Z世代」を一括りにしない

Z世代という言葉は広く使われますが、若者の価値観はむしろ多様化が進んでいます。たとえば、安定志向で長く勤めたい人もいれば、常に転職を前提にキャリアを組み立てる人もいます。インターネット環境に慣れた世代だからこそ、個々の経験や興味に大きな違いが表れやすいのです。そのため、「最近の若者は…」とひとまとめに語る方法では理解が深まりません。

多様化する若者の価値観が、育成における新たな課題として浮き彫りになっている今こそ、個別の行動や背景を把握しようとする姿勢こそが、現代の若手育成に不可欠です。

キャリア安全性と若手の不安

心理的安全性は、自分の意見を言いやすい環境づくりに寄与します。しかし、若手が抱える最大の問題は「このまま働き続けても将来の選択肢が狭まらないか」というキャリア不安です。実際の調査によると、キャリア不安と「現在の職場を『ゆるい』と感じるか」という質問には、密接な関係が見られたそうです。

そこで注目されるのがキャリア安全性という概念です。これは、若手が職場で学びながら市場価値を高められるかどうかを見極める指標でもあります。つまり、安心して成長できる仕事を任せ、続けるほどにスキルが身につ

くと感じられれば、離職への衝動は抑えられるということです。

離職を防ぐためにできること

優秀な若手ほど「自分はこの先通用しなくなるのでは」と焦りがちです。こうした思いを和らげるには、まず困り込まない方針が重要です。社外活動や副業を認め、会社と他の環境を比較できるようにすることが、むしろ愛着を深めるきっかけになります。さらに、本人の希望だけでなく、新たな経験のきっかけを与えていくことで、多様なキャリア観を前向きに育むことができるものです。

短距離走で成長を実感させる

若手は、ゴールが見えない長距離走のような仕事だと成長を自覚しにくいものです。そこで、目標をこまめに区切り、短期的に達成感を得られるタスクを設定することが大切だと筆者は説明しています。

数カ月単位で目に見えるゴールテープを設けると、自分が着実に成長していると実感しやすくなります。この積み重ねがキャリア安全性の源泉になり、若手が「ここで働き続けても自分の未来は広がる」と考えるきっかけにもなるのです。

また効果的なフィードバックも必須になります。これは部下の成長を促すためにとても大切で、単に褒めるだけでなく、具体的な改善点や期待する行動を明示することが必要です。定期的な面談で進捗を確認し、成功体験を共有する仕組みを整えるようにしましょう。

本書は実際の Z 世代と呼ばれているビジネスパーソンのインタビューや様々な調査の結果も示されており、若手社員の育成に関するヒントを沢山得ることができる一冊です。